

J T — G 1 0 7 . 1

広帯域 E-model

Wideband E-model

第 2.0 版

2016 年 8 月 30 日制定

一般社団法人
情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

目 次

＜参考＞	3
1．標準の概要.....	4
2．本標準で規定する内容	4

＜参考＞

1. 国際勧告等との関係

本標準は、2015年6月に国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T）SG12会合において勧告化されたITU-T勧告G.107.1に準拠している。

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1 オプション選択項目

特になし

2.2 ナショナルマター項目

特になし

2.3 原標準に対する変更項目

特になし

3. 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第1版	—	欠番
第2版	2016年8月30日	制定

4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページで御覧になれます。

5. その他

（1）参照する主な勧告、標準

TTC標準 : JT-G107, JT-G113, JT-G722, JT-P800, JT-P834, JT-P834.1

ITU-T勧告 : O.41, P.833, P.833.1

（2）本出版は、具体的な規定内容を含んでいない。規定はすべて準拠元であるITU-T勧告によっている。

具体的な規定内容はITU-T勧告を参照する必要がある。

6. 標準作成部門

網管理専門委員会

1. 標準の概要

本標準は、50-7000Hz 帯域（広帯域）のハンドセットを使用する標準的な端末を使用した場合において、通信過程において生じる様々な劣化要因を考慮したエンドーエンドの伝送品質を勘案し、伝送網設計に有効な計算モデル(Wideband E-model)を規定する。

Wideband E-model は、TTC 標準 JT-G.107「E-model」の広帯域音声通話版であり、狭帯域（300-3400Hz）の E-model を置き換えるものではない。現在のバージョンでは、ラウドネスロス、送話側の背景雑音、回線雑音、送話者エコー、絶対遅延、広帯域音声コーデック、VoIP におけるパケット損失に対する劣化要因を捉えることを対象としている。

2. 本標準で規定する内容

本標準で規定する内容は下記の ITU-T 勧告による。ITU-T 勧告中で参照している標準は表 1－1 に示す標準に置き換えるものとする。

ITU-T 勧告 G.107.1 : 「Wideband E-model」 (06/2015)

表 1－1 本標準で置き換えて参照する標準

ITU-T 勧告中の参照先標準	本標準で置き換える標準
ITU-T 勧告 G.107(2005)	TTC 標準 JT-G107
ITU-T 勧告 G.133(2002)	TTC 標準 JT-G133
ITU-T 勧告 G.722(1998)	TTC 標準 JT-G722
ITU-T 勧告 P.800(1996)	TTC 標準 JT-P800
ITU-T 勧告 P.834(2002)	TTC 標準 JT-P834
ITU-T 勧告 P.834.1(2015)	TTC 標準 JT-P834.1